



HONDA

各部の名称

各部の操作

メンテナンス

万一の場合には

資料

Freed + / Freed + Hybrid

車いす仕様車

オーナーズマニュアル

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

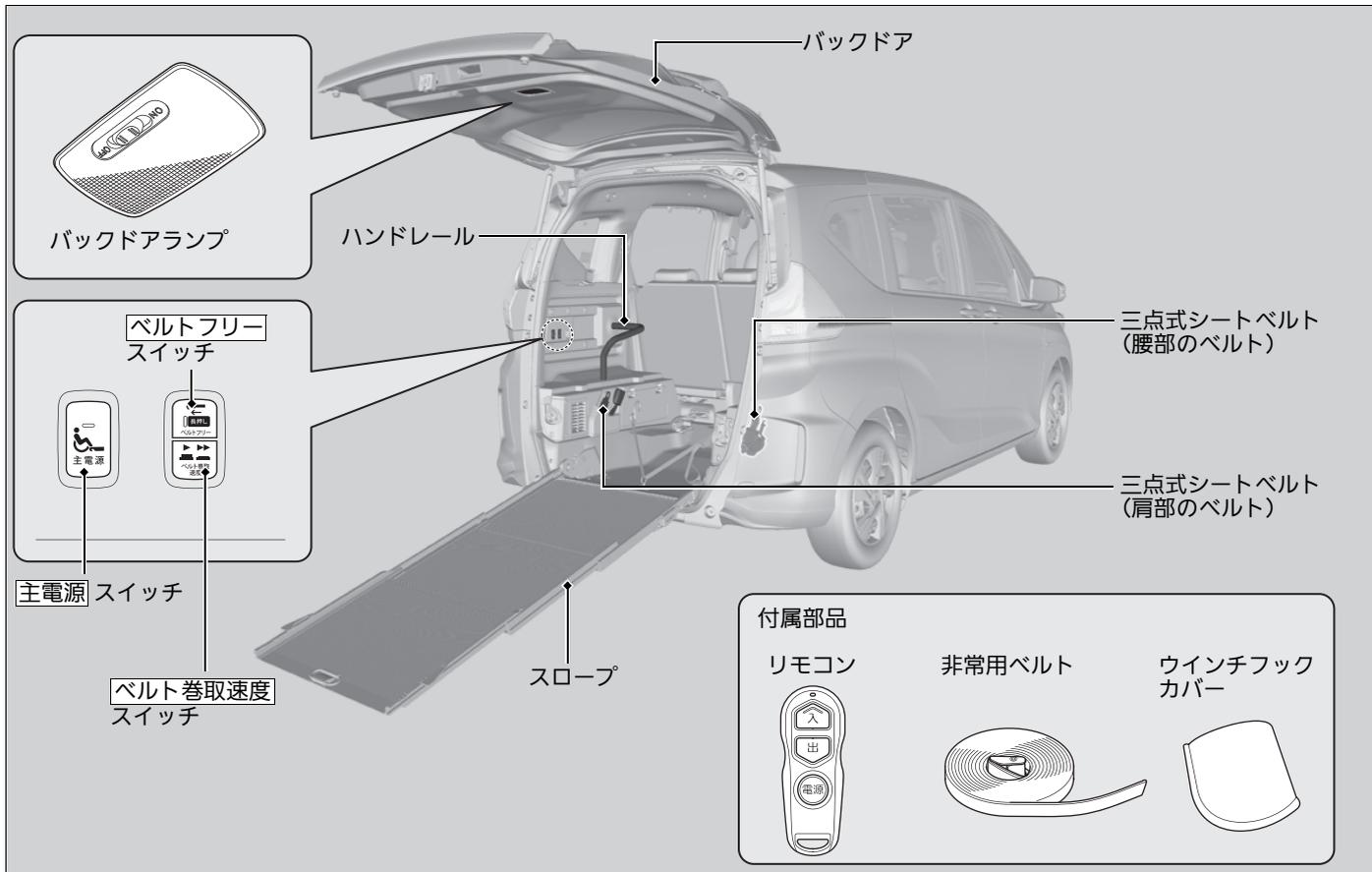
アドバイス

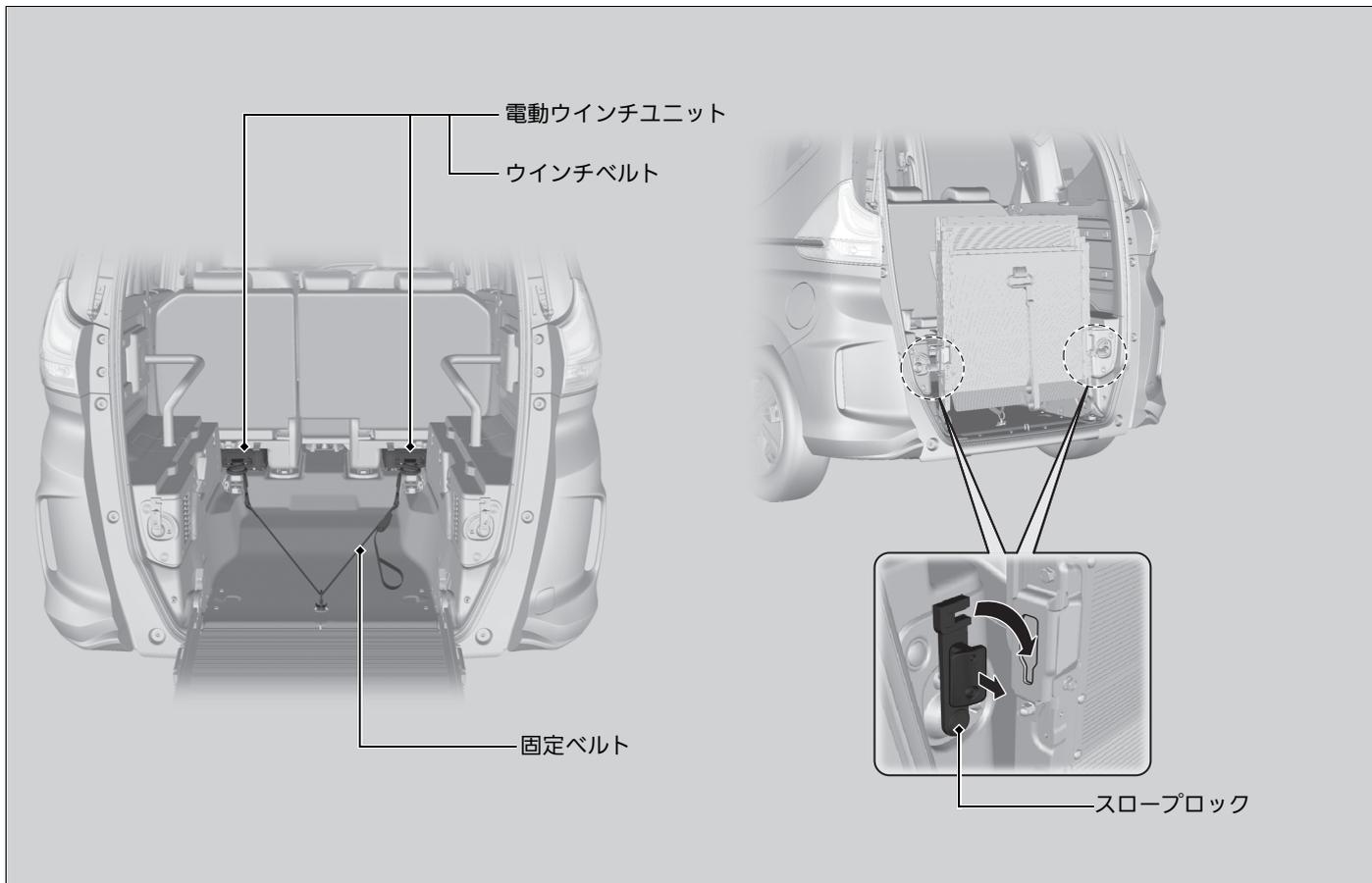
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

目次

各部の名称	2	メンテナンス	資料
各部の操作		車いす固定装置の点検.....	仕様.....
室内灯 / 室内装備品	4	電動ウインチリモコンの電池交換.....	車いす乗車の目安
バックドアランプ	4		
電動ウインチのリモコンの使いかた	5	万ーの場合には	
固定ベルトの取り付けかた	7	タイヤパンク応急修理キット	
スロープの扱いかた	8	ウインチベルトが作動しないとき	
車いすの乗せかた、降ろしかた	12	ヒューズの設置場所	
三点式シートベルトの着用	21	バックドアの解錠ができないとき	

各部の名称





室内灯 / 室内装備品

■バックドアランプ



■ON

バックドアの開閉に関係なく、点灯。

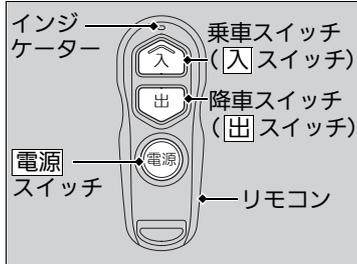
■中間

バックドアを開けると点灯し、閉めると消灯。

■OFF

バックドアの開閉に関係なく、消灯。

電動ウインチのリモコンの使いかた



■電源スイッチ

電源 スイッチを押すとリモコンの電源が入ります。

▶ エンジンキーターが赤く点灯します。

リモコンの **電源** スイッチを押してから約 6 秒以内に **入** スイッチまたは **出** スイッチを押さないと、自動的にリモコンの電源が切れます。

※電動ウインチのリモコンの使いかた

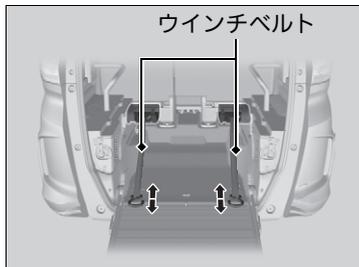
リモコンは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
 - 分解しない
 - 改造しない
 - リモコンに印字されている技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない
- 分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。**

リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。

故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- リモコンを落としたり、重いものをのせない
- リモコンに液体をかけない
- 分解をしない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない



■乗車スイッチ(入)スイッチ

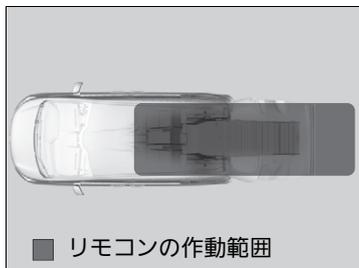
[入] スイッチを押している間、電動ウインチが作動し、ウインチベルトが巻き取られます。

▶インジケーターが緑に点滅します。

■降車スイッチ(出)スイッチ

[出] スイッチを押している間、電動ウインチが作動し、ウインチベルトが引き出されます。

▶インジケーターが緑に点滅します。



[入] スイッチや [出] スイッチを押している間は電動ウインチが作動します。停止したい場合は [入] スイッチや [出] スイッチから指を離してください。

※電動ウインチのリモコンの使いかた

操作中にリモコンのスイッチから指を離すと「ピピッ」と音がします。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

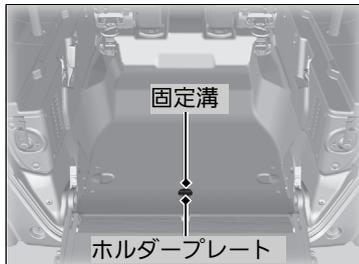
[電源] スイッチを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

▶電動ウインチリモコンの電池交換 P.27

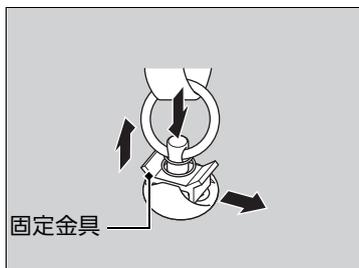
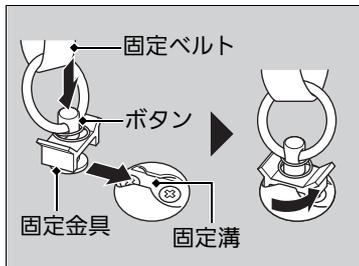
リモコンは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。また、周囲の電波状態により [出] または [入] スイッチを押しても電動ウインチが作動しない場合があります。

そのときはリモコンの [電源] スイッチを押し直した後、再度 [出] または [入] スイッチを押し動かしてください。

■ 固定ベルトの取り付けかた



1. 固定金具を持ち、ボタンを押しながら固定溝にスライドさせる。
2. 固定金具を「カチッ」と音がするまで回し、ホルダープレートに確実に固定されていることを確認する。



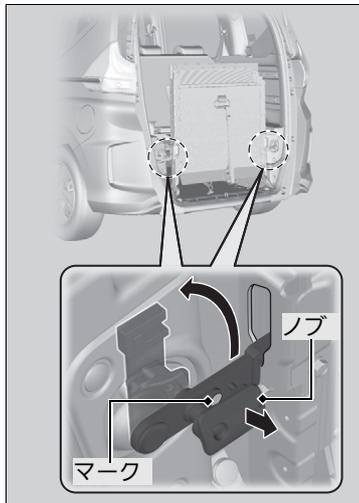
■ 取り外しかた

固定金具を引き上げながらスライドさせて固定溝から取り外す。

- ▶ 車いすを乗せないときは、固定ベルトを外してください。

■スロープの扱いかた

■直立位置に格納されたスロープを降ろす



1. バックドアを開ける。
▶ **FREED/FREED+ 取扱説明書**
2. スロープを手で押さえながら、ノブを引いて左右のスロープロックを回転させて解除する。
▶ 解除後のスロープロックは垂直の向きで確実に固定してください。
▶ ノブの赤いマークが見えないことを確認してください。



3. 操作グリップを持って手前に倒し、スライド式のスロープを引き出し地面に降ろす。
▶ スロープが地面に接地していることを確認するまでは手を放さないでください。

▶スロープの扱いかた

⚠ 注意

スロープを操作するときは、以下のことに注意する。

- 傾斜のない平らな所で行う
- 手などははさまないように十分注意する
- 車内に足を乗せない
- スロープは最後まで引き出し、完全に接地した状態で使用する
- スロープを引き出した状態で車を走行しない
- 降雨時または積雪時はスロープが滑りやすくなるので注意する

アドバイス

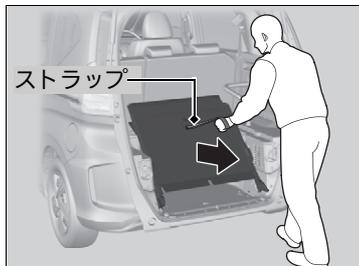
スロープの上では1ヵ所に重さが集中しないようにする。

傷や破損の原因となります。

スロープの耐荷重を超えないようにしてください。

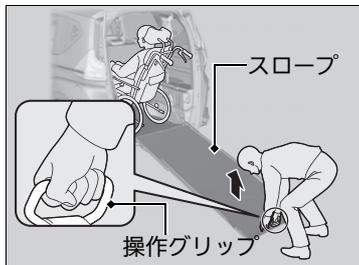
スロープの耐荷重(200kg：車いすを含む)を超えないようにしてください。スロープを損傷するおそれがあります。

■室内側に格納されたスロープを降ろす

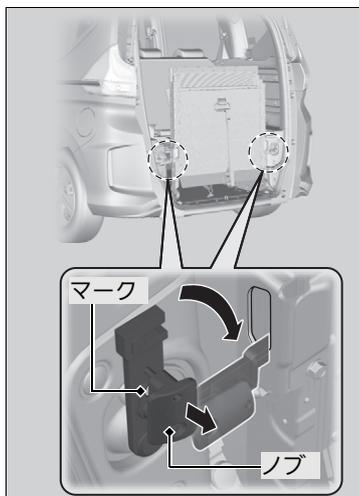


1. バックドアを開ける。
▶ FREED/FREED+ 取扱説明書
2. ストラップでスロープを引き上げ、倒れないように支えながら操作グリップに持ち替える。
3. 操作グリップを持って手前に倒し、スライド式のスロープを引き出し地面に降ろす。
▶ スロープが地面に接地していることを確認するまでは手を放さないでください。

■直立位置にスロープを格納する



1. 操作グリップを持って、スロープを持ち上げ、スライドさせて起こす。



2. スロープを手で押さえながら、ノブを引いて左右のスロープロックを回転させて固定する。

▶スロープは確実に固定してください。

▶ノブの赤いマークが見えないことを確認してください。

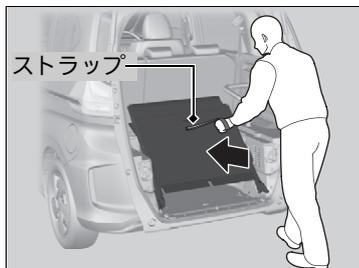
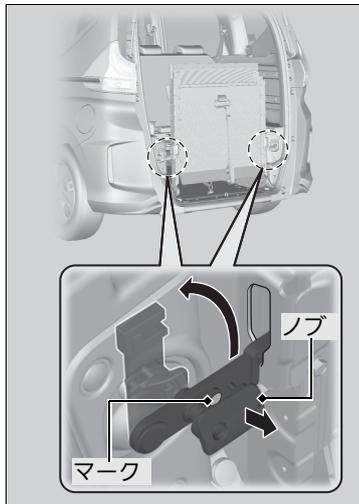
※直立位置にスロープを格納する

アドバイス

スロープロックが確実に固定されていない状態でバックドアを閉めるとノブが当たりスロープロック及びバックドアの損傷の原因になります。

■室内側にスロープを格納する

スロープを室内側に倒して格納することが可能です。



1. スロープを手で押さえながら、ノブを引いて左右のスロープロックを回転させて解除する。

- ▶ 解除後のスロープロックは垂直の向きで確実に固定してください。
- ▶ ノブの赤いマークが見えないことを確認してください。

2. ストラップを持ち、ゆっくりと室内側に倒す。

※室内側にスロープを格納する

アドバイス

スロープの損傷の原因になりますので、室内側にスロープを格納する際は、以下のことを確認してください。

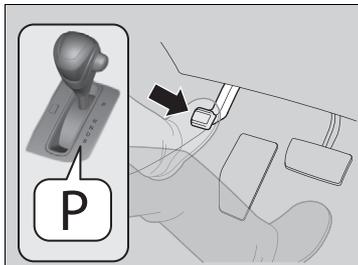
- 固定ベルトは必ず外し、車内のポケットなどに収納してください。
- スロープの下に物が無いことを確認してください。

車いすの乗せかた、降ろしかた

車いすの乗降や固定操作は平坦な場所で、周囲の安全を十分確認してから行ってください。

車いすの乗せかた

① 車いすを乗せる前に



1. パーキングブレーキがかけてあることと、シフトポジションが **P** になっていることを確認する。
2. スロープを降ろす。
❏ スロープの扱いかた P.8

❏ 車いすの乗せかた、降ろしかた

⚠ 警告

車いすは必ず車いす固定装置で固定する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

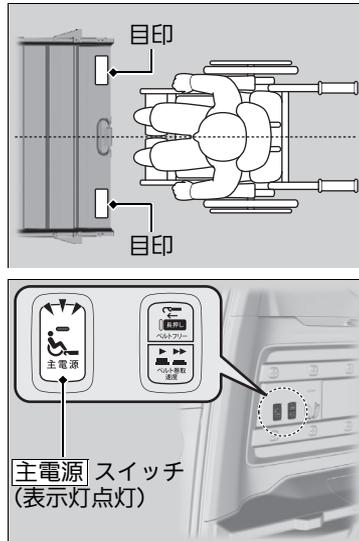
⚠ 注意

車いすの乗降や固定操作をするときは、必ずエンジンを止める。
不意に車が動き出したりして、思わぬけがをすることがあります。

車いすの乗降や固定操作は介護する人が行う。
車いすに座っている人が自力でスロープを走行したり、固定操作を行うと、スロープから落ちたり、体の一部をはさんだりしてけがをするおそれがあります。

車いす乗車後にセカンドシートを後方にスライドさせるときは後席の足元に当たらないように注意する。

② 車いすを乗せる



1. 車いすをスロープの目印を目安にスロープ中央に停車させ、車いすのブレーキをかける。
2. **主電源** スイッチを押してシステムを「ON」にする。
 - ▶ 「ピッ」と音がして表示灯が点灯します。
 - ▶ **主電源** スイッチを押してから約1分間、ベルトフリーなどのスイッチ操作が無い場合は自動的に主電源が切れます。(表示灯消灯)

❏ 車いすの乗せかた

⚠ 注意

ウインチベルトの操作は、電動ウインチ付近に人がいないことを確認して行う。

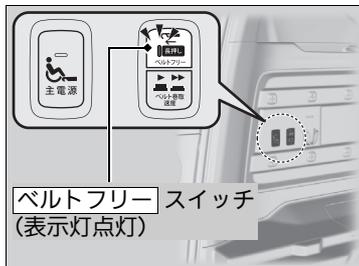
ウインチベルトを急に離すといきおいよく巻き取られるので、フックを持ってゆっくりと巻き取らせる。

ウインチベルトを床面に放置しない。

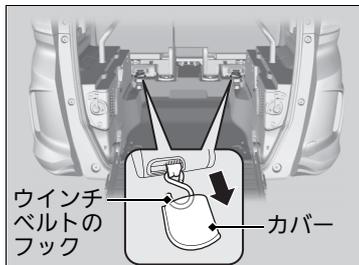
乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。

車いすを車の所定の位置に乗せるときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすの間にはさまれないように十分注意する。

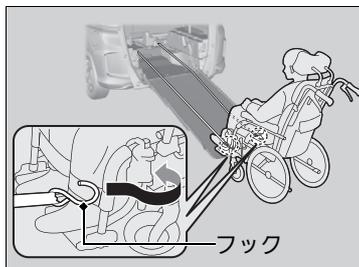
介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意する。



3. **ベルトフリー** スイッチを 1 秒間押す。
「ピーッ」と音がして表示灯が点灯します。
▶ベルトフリー作動中は「ピピッ・・・
ピピッ・・・」と音が続きます。



4. ウインチベルトのフックをカバーから取り出す。



5. ウインチベルトのフックを引き出して、ベルトがねじれないように車いすの前輪側のフレームやフックにかける。

❏ 車いすの乗せかた

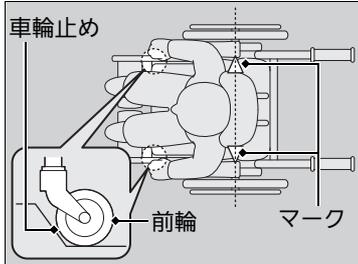
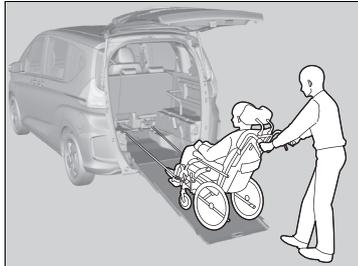
電動ウインチは車いすの乗降を補助するもので、自動で乗降する装置ではありません。

電動ウインチユニットに飲み物などをこぼさないでください。
ウインチが作動しなくなるおそれがあります。

セカンドシートに乗車する場合は、電動ウインチユニットを踏まないでください。
ウインチが作動しなくなるおそれがあります。

ベルトフリー作動中にウインチベルトが引き出せないとき、または表示灯が点滅したときは、**ベルトフリー** スイッチを押してもベルトを引き出すことができません。

❏ **ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき** P.34



6. 車いすのブレーキを解除する。
7. リモコンの **電源** スイッチを押しインジケーターが点灯後、**入** スイッチを押しながら介護する人が車いすをしっかりと支えて車内に乗せる。

❏ 電動ウインチのリモコンの使いかた P.5

8. 車いすの前輪が車輪止め付近にくるまでゆっくり前進する。
後輪中央を床面のマークを目安として停車してください。

❏ 車いすの乗せかた

注意

電動ウインチで車いす以外のものを引き上げない。

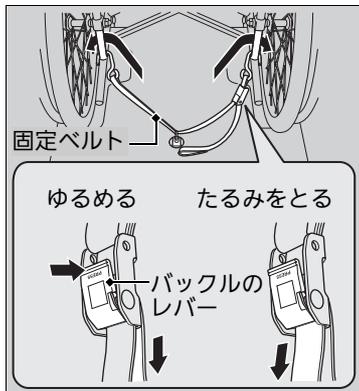
電動ウインチの故障やベルトの損傷につながったり、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

電動ウインチ停止中に **ベルト巻取速度** スイッチを押すことで車いすの乗車速度の変更ができます。
ボタンを押し込むとベルトを巻き取る速度が速くなります。
通常に戻す場合は再度ボタンを押してください。



車輪止めを越えないようにゆっくり乗車させてください。電動ウインチに当たり、損傷するおそれがあります。

③ 車いすを固定する



1. 固定ベルトを取り付ける。
▶ 固定ベルトの取り付けかた P.7
2. 固定ベルトのバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめる。
3. 固定ベルトのフックを車いす後側(後部)のフレームやフックにかける。
4. 調整側のベルトを引っ張り、たるみをなくす。
▶ フックを軽くゆさぶり、ベルトにたるみがないことを確認してください。
▶ 乗員の足元に十分なスペースがないときは、セカンドシートを最前端にスライドし、車いすの固定が完了した後にセカンドシートの位置を調整してください。
5. リモコンの[電源]スイッチを押しインジケーターが点灯後、[入]スイッチを「ピーピー」と音がするまで押し続け、車いすのブレーキをかけ車輪をロックする。
▶ 車いすをゆすり、確実に固定されていることを確認してください。
▶ 電動ウインチのリモコンの使いかた P.5

車いすの乗せかた

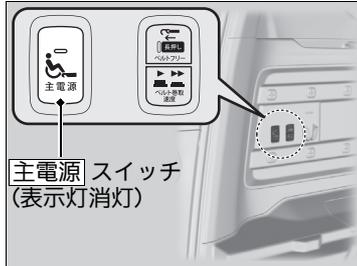
⚠ 警告

車いす本体のブレーキを必ずかける。
確実にかけられていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

⚠ 注意

走行する前に、車いすが確実に固定されていることを確認する。
確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

走行する前に、[主電源]スイッチを押して「OFF」にする。



④ スロープを格納する

1. 直立位置にスロープを格納する。
▶ スロープの扱いかた P.8
2. バックドアを閉める。
▶ FREED/FREED+ 取扱説明書

6. **主電源** スイッチを押してシステムを「OFF」にする。
7. シートベルトを着用する。
▶ 三点式シートベルトの着用 P.21

▶▶ 車いすの乗せかた

警告

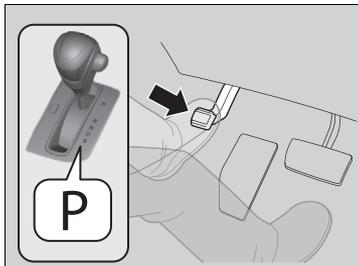
バックドアを閉めるときは、車いすに座っている人の頭にぶつけないように十分注意する。

注意

車いす乗車スペース内には車いすに座った人以外の人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

車いすの降ろしかた

① 車いすを降ろす前に

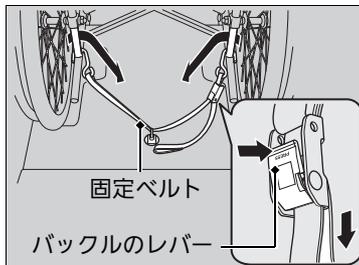


1. パーキングブレーキがかけてあることと、シフトポジションが **P** になっていることを確認する。

② スロープを降ろす

- ▶ スロープの扱いかた P.8

③ 車いすの固定を解除する



1. シートベルトを外す。
 - ▶ 三点式シートベルトの着用 P.21
2. 固定ベルトのバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめてフックを車いすから取り外す。
3. 固定ベルトを取り外す。
 - ▶ 固定ベルトの取り外しかた P.7

▶▶ 車いすの降ろしかた

⚠ 注意

車いすを車から降ろすときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすの間にはさまれないように十分注意する。

介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意する。

介護する人はスロープの途中で車いすから手を離さない。

ウインチベルトを収納するときは、リモコンを使わずに収納してください。

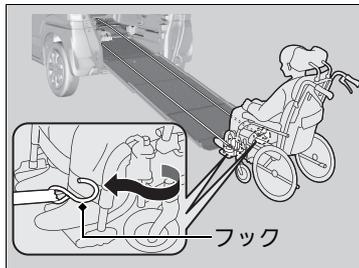
リモコンを使うと、電動ウインチシステムが、車いすが乗っていると認識し、落下防止の状態となります。

そのため、**ベルトフリー**スイッチを押してもベルトが引き出せなくなります。

▶ **ベルトフリー**スイッチを押してもベルトが引き出せないとき P.34

④ 車いすを降ろす

1. [主電源] スイッチを押してシステムを「ON」にする。
 2. 車いすの車輪のブレーキを解除する。
 3. リモコンの [電源] スイッチを押しインジケータが点灯後、 [出] スイッチを押しながら介護する人がゆっくりと車いすを引き、車外へ降ろす。
 - ▶ [出] スイッチを押してもベルトがゆるまない場合は、車いすを押しながら [出] スイッチを押してください。
- 電動ウインチのリモコンの使いかた P.5
 ■ ウインチベルトが作動しないとき P.29
4. 車いすがスロープから完全に降りていることを確認し、車いすのブレーキを両輪ともかける。
 - ▶ 車いすの前輪がスロープ後端から 10cm 程度の距離で停めてください。



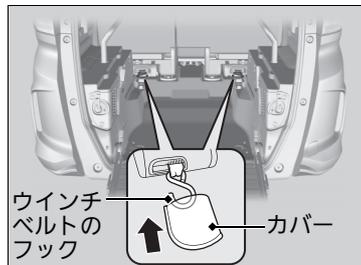
5. リモコンの [電源] スイッチを押しインジケータが点灯後、 [出] スイッチを押しながら、フックを持ち車いすから取り外す。
6. フックを持ち、リモコンを使わずに、ウインチベルトがねじれないようにゆっくりと巻き取らせませす。

▶▶ 車いすの降ろしかた

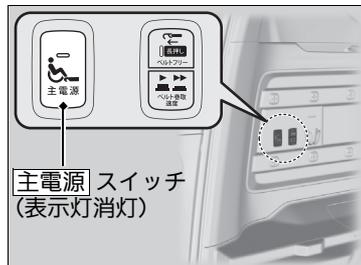
注意

ウインチベルトの操作は、電動ウインチ付近に人がいないことを確認して行う。

ウインチベルトを床面に放置しない。
乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。



7. ウインチベルトのフックにカバーを取り付ける。



8. **主電源** スイッチを押してシステムを「OFF」にする。

⑤ スロープを格納する

1. スロープを格納する。
 - ▶ スロープの扱いかた P.8
2. バックドアを閉める。
 - ▶ FREED/FREED+ 取扱説明書

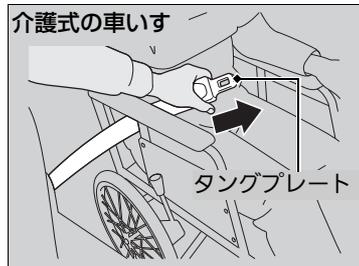
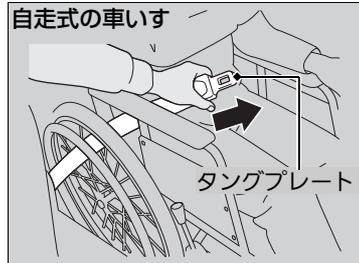
三点式シートベルトの着用

この車は、車いすに座っている人専用の ELR 付三点式シートベルトを装備しています。

■ELR 付三点式シートベルト

体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
シートベルトの詳細は、FREED/FREED+ 取扱説明書をご覧ください。

腰部のベルト



1. タングプレートをつかみ、車いすの主車輪のスポーク、シート部側面の開口部のできるだけ下を通す。

※三点式シートベルトの着用



警告

シートベルトは、以下のことに注意し、必ず正しく着用する。

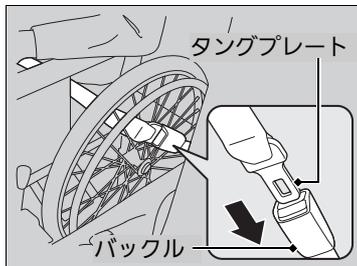
- 腰部のベルトと肩部のベルトを両方着用する
- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用する
- 肩部のベルトはベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用する

正しく着用していないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

※腰部のベルト

車いすの種類によってシートベルトの通しかたが異なります。

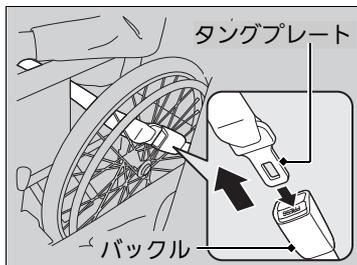
イラストを参考にして、ベルトを通してください。



2. ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中に「カチリ」と音がするまで差し込む。



3. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるとように戻し方向へ引き、たるみがないように身体に密着させる。



■外すとき

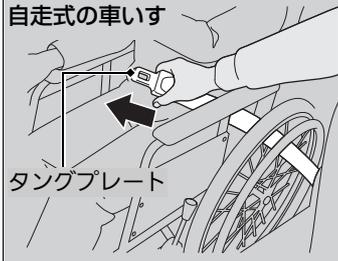
バックルの赤色の **PRESS** を押して外す。

※腰部のベルト

ベルトが自動的に巻き取られますので、タングプレートに手を添えてゆっくり巻き取らせてください。

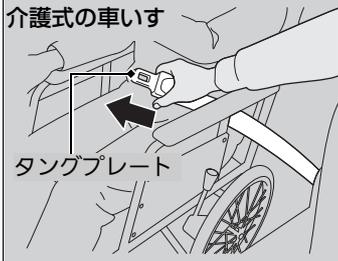
肩部のベルト

自走式の車いす



タンクプレート

介護式の車いす



タンクプレート

1. タングプレートをつかみ、車いすの主車輪のスポーク、シート部側面の開口部のできるだけ下を通す。
▶ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにする。

肩部のベルト



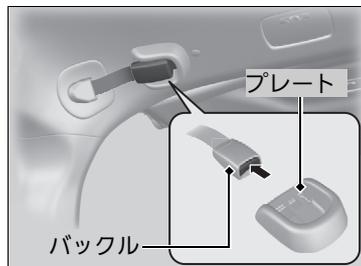
注意

肩部のベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

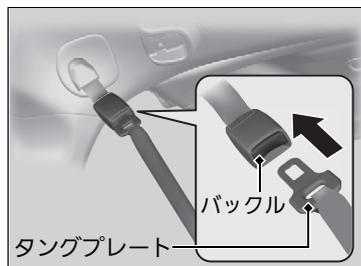
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

車いすの種類によってシートベルトの通しかたが異なります。

イラストを参考にして、ベルトを通してください。

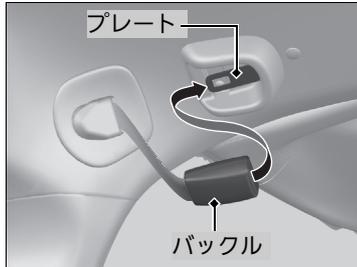
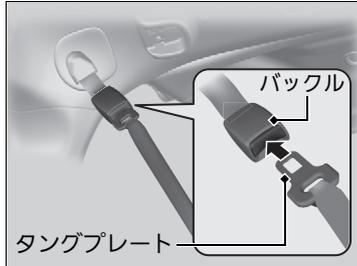


2. 赤色の **PRESS** を押してバックルを外す。



3. ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中に「カチリ」と音がするまで差し込む。

4. ベルトにねじれ、たるみ、引っかかりがないかを確認する。



■外すとき

1. バックルの赤色の **PRESS** を押して外す。
2. バックルをプレートにはめる。

※肩部のベルト

ベルトが自動的に巻き取られますので、タングプレートに手を添えてゆっくり巻き取らせてください。

車いす固定装置の点検

車いす固定装置の点検は、日常点検と定期点検があります。日常点検は使用状況に応じ、お客様の判断で適時行ってください。定期点検は、12 か月および24 か月ごとに Honda 販売店に依頼してください。

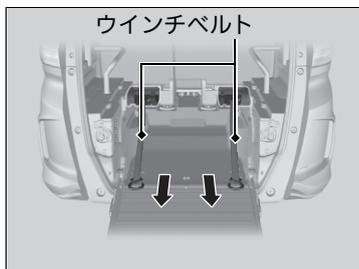
点検項目

■作動のスムーズさ、異音の点検

リモコンの **電源** スイッチを押した後、**入** スイッチや **出** スイッチを押して装置がスムーズに作動するか、異音がないかを点検します。

▶ 電動ウインチのリモコンの使いかた P.5

■ウインチベルト、固定ベルトの点検



ウインチベルトはベルトを引き出して点検してください。

以下の各ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどがあるときは交換してください。

- ウインチベルト
- 固定ベルト
- 車いす用ベルト
- 非常用ベルト
- ストラップ

- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたして拭き取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

▶ 車いす固定装置の点検

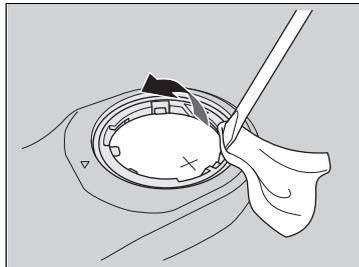
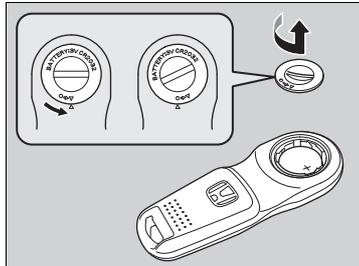
車いす固定装置の点検整備方式は、下表の通りです。

点検整備項目	点検時期		
	日常点検	12 か月ごと	24 か月ごと
作動のスムーズさ、異音	○	○	○
ウインチベルト、固定ベルト	○	○	○

部品の交換は、Honda 販売店に依頼してください。

電動ウインチリモコンの電池交換

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。電源スイッチを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。



ボタン電池： CR2032

1. コインなどを使い、電池カバーを矢印の方向に回して外す。
2. 電池固定部の隙間にマイナスドライバーの先端を差し込み、電池を取り外す。
▶ショートさせないように、ドライバーに布などを巻き付けてください。
3. ⊕と⊖を間違えないよう、電池を交換する。
▶交換後、元のように電池カバーを取り付けます。

電動ウインチリモコンの電池交換



注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。

飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

電動ウインチリモコンをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

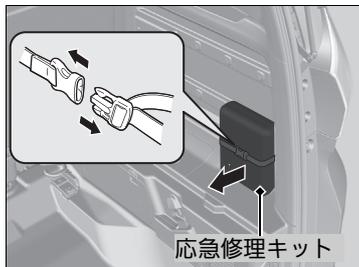
電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

万ーの場合には

タイヤパンク応急修理キット



応急修理キットは、カーゴエリアの運転席側にあります。

▶ FREED/FREED+ 取扱説明書

ウィンチベルトが作動しないとき

ウィンチベルトが作動しないときは、車のバッテリーを点検してください。
バッテリーがあがっていないときは、パワーモードを OFF モードにして、
ヒューズが切れていないか確認します。

❑ ヒューズの設置場所 P.36

❑ ウィンチベルトが作動しないとき

車のバッテリーを再接続したときやヒューズを交換したときに **ベルトフリー** スイッチが使えないことがあります。

❑ ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき P.34

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換した後、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量の予備ヒューズと交換してください。

リモコンの電波状態、車両のバッテリーの状態やウィンチに異常があると作動が停止することがあります。

ウィンチベルトが作動しないときは以下のことが考えられます。

ブザー	表示灯		状態	確認内容
	主電源	ベルトフリー		
ピーピーピー (3回吹鳴)	交互に点滅		ウィンチの部品が故障しているとき	販売店で点検を受けてください。
ピーピーピー (3回吹鳴)	点滅	消灯	車両のバッテリー電圧が低下しているとき	バッテリーを点検してください。 バッテリーに問題が無い場合は、販売店で点検を受けてください。
			パワーモードがONモードでシフトポジションを P 以外にしたとき	リモコンの電源を再度ONしてください。その後、 入 または 出 スイッチを押してください。
ピーピーピー (3回吹鳴)	点灯	消灯	リモコンの通信状況が悪かったとき	<ul style="list-style-type: none"> • リモコンの電源を再度ONしてください。その後、入 または 出 スイッチを押してください。 • 何度も同様な事象が発生する場合は、リモコンの電池が消耗している可能性があります。 • 電池を交換しても改善しない場合は、販売店で点検を受けてください。
			ウィンチベルトにかかる負荷が大きいとき	<ul style="list-style-type: none"> • 傾斜地であれば、平坦な路面で使用してください。 • ウィンチベルト、車いす付近に引掛りが無いか確認し、異物がある場合は取り除いてください。 • 被介護者と車いす合わせて 120kg を超えている場合はウィンチ性能を満足できません。 上記以外で何度も同様な事象が発生する場合は、販売店で点検を受けてください。

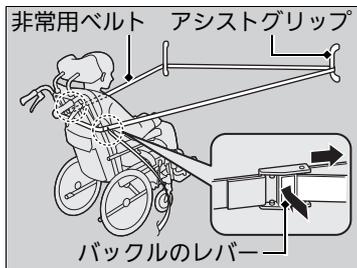
■ リモコンの操作途中でウインチが止まったとき

「ピーピーピー」と3回音がしてウインチが停止したときは、以下の手順に従って操作してください。

1. リモコンの **電源** スイッチを押し直す。
 - ▶ リモコンのインジケーターが赤く点灯していても押しください。
2. 再度 **出** または **入** スイッチを押す。
 - ▶ ウインチが作動しない場合は、装置の故障が考えられます。
非常用ベルトを使って車いすを車外に降ろしてください。
 - 乗降の途中で停止したとき P.32

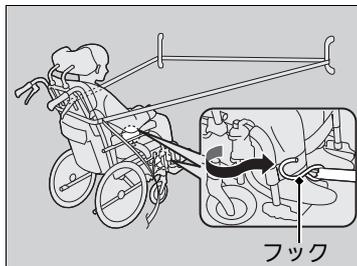
乗降の途中で停止したとき

リモコンを紛失した場合や電池が切れた場合、乗降の途中で停止した場合は、非常用ベルトを使って車いすを車外へ降ろしてください。Honda 販売店にご連絡ください。



1. 車いすのブレーキをかける。
2. **主電源** スイッチを押して OFF にする。
3. 非常用ベルトを左右のアシストグリップに通し、車いすの背もたれ付近にかける。
4. 非常用ベルトのバックルのレバーを押してベルトを調整し車いすを固定する。
5. 車いすのブレーキを解除する。
6. バックルのレバーを押し、ベルトを少しゆるめる。
7. 車いすを少し前に動かしてウインチベルトのフックを車いすから取り外し、車いすを支える。

▶ ウインチベルトを取り外した後は、速やかに車いすを支えてください。



ウインチベルトが作動しないとき



注意

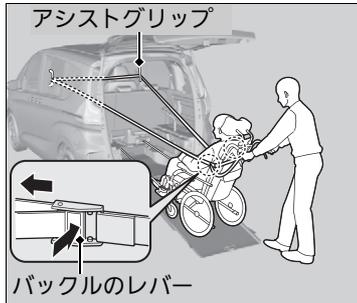
装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。



注意

車いすのかたを降車させることができなくなった場合は、備え付けの非常用ベルトで車いすを固定後、ウインチのフックを外し、十分に注意しながら降車させる。



8. 車いすを支えながら、非常用ベルトのバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめながら車いすを降ろす。
▶ベルトの開け閉めを繰り返し行い、ゆっくりと降車させてください。
9. 車いすがスロープから完全に降りていることを確認し、車いすのブレーキを両輪ともかける。
10. 非常用ベルトを取り外す。

■ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき

■ベルトフリースイッチの表示灯が点灯し、「ピッピッ・・・ピッピッ・・・」と音が続いているとき

以下の手順にしたがって操作してください。

1. リモコンの **電源** スイッチを押しインジケーターが点灯後、**出** スイッチを押しながらウインチベルトを少し引き出す。
2. **ベルトフリー** スイッチを押してベルトを引き出す。

■ベルトフリースイッチの表示灯が点滅し、「ピッピッ・・・ピッピッ・・・」と音が続かないとき

以下の手順にしたがって操作してください。

1. ウインチベルトを一度収納する。
2. リモコンの **電源** スイッチを押しインジケーターが点灯後、**出** スイッチを押しながらベルトをすべて引き出す。
3. リモコンを使わずに、ゆっくりとベルトを巻き取らせる。
▶ **ベルトフリー** スイッチを押してベルトが引き出せるようになります。

また上記の操作を行ってもベルトを引き出すことができない場合は、装置の故障が考えられますので、Honda 販売店にご連絡ください。

※車内に固定された状態で停止したとき



注意

装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

ウインチベルトを収納するときは、リモコンを使わずに収納してください。

リモコンを使うと、電動ウインチシステムが、車いすが乗っていると認識し、**ベルトフリー** スイッチを押してもベルトが引き出せなくなります。

ベルトフリー スイッチの表示灯が点滅するのは以下の場合です。

- リモコンを使ってウインチベルトを収納したとき
- 車のバッテリーを再接続したとき
- ヒューズを交換したとき
- リモコンを使用せずに車いすを降ろしたとき

■ 車内に固定された状態で停止したとき

すみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対に車いすを乗せないでください。

■ 車いす乗車の方のみ車外に降ろすときには

万が一、車いすが固定された状態で停止し、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方のみ降ろしてください。

1. スライドドアを全開にし、セカンドシートを倒す。
 - ▶ 車いす乗車の方を車外へ降ろすときは、車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にし、セカンドシートを倒します。
2. 車いす乗車の方を降ろす。

📖 FREED/FREED+ 取扱説明書

📖 車内に固定された状態で停止したとき



注意

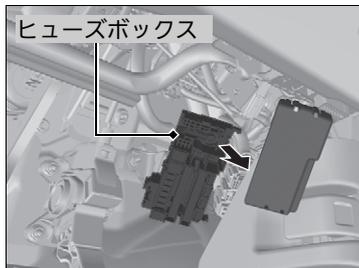
装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

ヒューズの設置場所

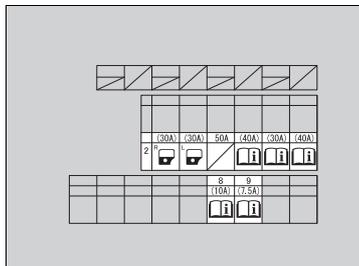
ウインチが作動しない場合、パワーモードをOFFモードにして、ヒューズが切れていないか確認します。

室内運転席側のヒューズボックス B



運転席足元にあります。

▶ FREED/FREED+ 取扱説明書

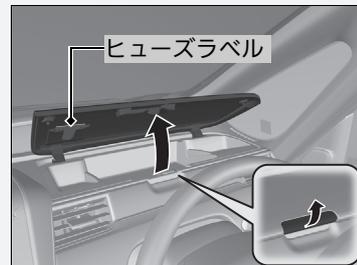


■各ヒューズの装備と容量

表示	装備	容量
1	右側パワースライドドア モーター	(30A)
2	左側パワースライドドア モーター	(30A)
2	—	50A
	ウインチモーター	(40A)
	VMP2	(30A)
	ウインチモーター	(40A)
8	ウインチクラッチ	(10A)
9	たるみ取りモーター	(7.5A)

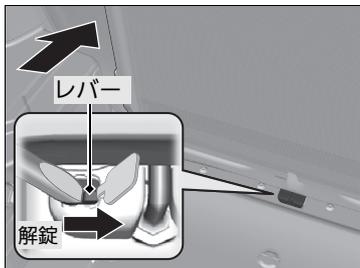
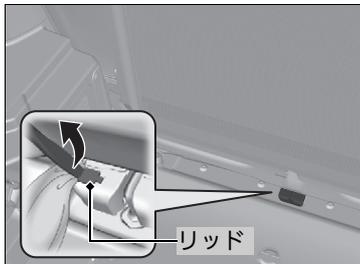
■室内運転席側のヒューズボックス B

運転席アッパーボックス内に収納されたラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。



バックドアの解錠ができないとき

万一、バックドアが解錠できなくなった場合は、応急処置として次の方法で解錠してください。



1. バックドアのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。
▶ リッドが傷付かないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。
2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、バックドアを押し開ける。

⚠ バックドアの解錠ができないとき

⚠ 注意

バックドアを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は Honda 販売店で点検を受けてください。

仕様

	項目	サービスデータ
スロープ	耐荷重	200kg
ウインチ	最大引上げ重量	120kg
乗車定員	車いすご利用の方が 乗車される場合	6人 (車いすご利用の方も含む)
	車いすご利用の方が 乗車されない場合	5人

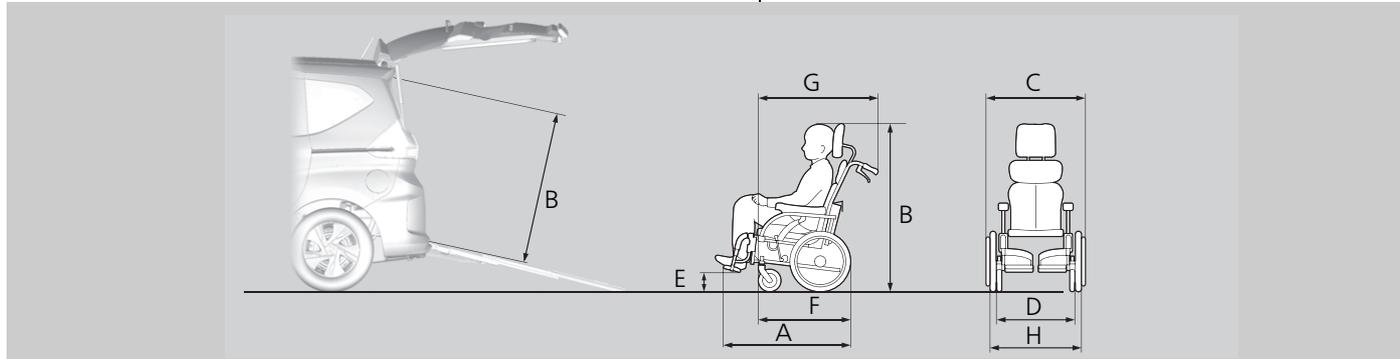
車いす乗車の目安

乗車可能な車いすのサイズは下表のようになっていきますので、車いすを購入されるときに、あらかじめ確認してください。
 なお、下記寸法を満たしている場合でも形状によっては乗車のできない車いすがあります。

☒車いす乗車の目安

車いすはヘッドレスト付をおすすめします。
 思わぬ事故に備え、ヘッドレスト付の車いすをおすすめします。

車いすのタイプ	自走式	介護式
A: 全長(セカンドシートスライド前端時)	1162mm 以下	
A: 全長(セカンドシートスライド後端時)	928mm 以下	
B: 全高	1295mm 以下	
C: 全幅	670mm 以下	640mm 以下
D: 前輪幅	590mm 以下	
E: フットプレート高さ	80mm 以上	
F: 前輪の前端～後輪の後端	860mm 以下	
G: 前輪の前端～ハンドル後端	776mm 以下	
H: 後輪幅	640mm 以下	



お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <http://www.honda.co.jp/>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/>

※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名